

2020年第11回教育委員会定例会 会議録

日 時 2020年11月24日(火曜日)午後1時30分～午後4時40分
場 所 北栄町役場 第1委員会室
出席者 別本勝美教育長、光村哉智代委員、徳岡幸裕委員、竹信純一委員、吉田由香里委員
説明等の出席者 中原教育総務課長、杉本生涯学習課長、磯江図書館長、岡崎中央公民館長
藤木室長、澤村指導主事、浪花指導主事、崔 SSW、中野室長、渡辺室長

会議の要旨

(開会)	午後1時30分
別本教育長	只今より、第11回教育委員会定例会を開催します。 会議録署名人です。事務局お願いします。
事務局	光村委員、吉田委員お願いします。 (各委員了承)
別本教育長	行政報告について、教育長から報告します。 (資料により説明) ご質問等、ございますか。(なし) 続いて、各課から報告をお願いします。
事務局	(資料により説明)
別本教育長	教育総務課関係で、ご質問等ございますか。(なし) 生涯学習課関係で、ご質問等ございますか。
光村委員	成人式の来賓はどのようになっていますか。
事務局	すみません、確認させて下さい。来賓は縮小しますが、お願いするかどうかの確認をさせて下さい。
竹信委員	この「元旦マラソン&ウォーキング大会」は定員500名ということですが、当然当日ではなくて事前に提出をする格好ですか。
事務局	当日受付ですが、全戸配布するチラシに事前に申込書を書いて持ってきてもらって、その場で受付します。
竹信委員	500名をその時点で超えた場合は、参加出来ませんと言われるのでしょうか。
事務局	おそらく500名来ないだろうという見込みの中でやっております。
竹信委員	わかりました。
事務局	出たいと思う人と不安だと思える人はおられると思います。機会を大事にしながらも、人数がそんなにどんどん来ることはないと思います。今までの経験で見込みということです。
別本教育長	その他ございますか。
吉田委員	「北栄地域財産を知ろう！語ろう！！」についてですが、私も参加させていただきました。とても良い会だったと思います。ただこの後どういう風に展開されるのかなあと気になったので、これから次の発言を基に何か参考になるものがあって事業を

されることはありますか。

事務局 まず計画に反映させる部分を反映させていただきたいということと、中々北栄町の方は活発に意見を交わす場が少ないなど思っている中で、この会に集まれた方には積極的にご意見をいただいたので、こういう方を中心に定期的に話し合いをしながら、活動がそれぞれで出来る取り組みに繋がっていけば良いなあと考えておりますので、この会の方々にも関わっていただく部分を少し意識しながらそこで出た意見に対して、町があれしましょうこれしましょうと中々言えない部分もあるので、お話が出た部分に上手く住民主体の活動が出来る仕掛けというのを今後考えていきたいなあと思っております。

吉田委員 仕掛けがすごく大事なかなと思います。先のことを考えてもらうととても良いグループが出来るのかなと思いました。

事務局 自分も何か関わられたらという人が多くおられましたので、そういう方とこの会には参加されていませんが地道に活動されている方々を上手く繋ぐとか、コーディネーター的なことを上手に出来るようなことも意識したいなあと思っているところです。

別本教育長 その他、ございますか。(なし)

図書館関係で、ご質問等ございますか。

竹信委員 12月の予定についてですが、多分クリスマスにこれまではゴスペルの方をお呼びしてされていましたが、今年は中止になったのでしょうか。

事務局 今後の予定を図書館は付けていませんので、口頭で報告させていただきます。「ゴスペルオーブ」さんのクリスマスコンサートを、12月12日(土)の午後4時から午後5時までの間で開催します。もちろん感染症対策はしっかり取った上で実施ということですが、「ゴスペルオーブ」さん自身が常にステージ活動のようなことはされていますので、グループ自体もきちんと対策を取っておられるということを確認した上で、開催を決定しているところです。

竹信委員 わかりました。図書館の利用者数についてですが、新しい方はどの程度増えておられますか。

事務局 新規登録は、びっくりするほど増えているという状況ではありません。

竹信委員 もう既にカードを作られた方が、ずっと繰り返しという格好でしょうか。

事務局 そうですね。新規登録の方もあるのはあります。

別本教育長 その他、ございますか。(なし)

中央公民館関係で、ご質問等ございますか。(なし)

全体を通して、ご質問等ございますか。

竹信委員 今日計画訪問をした時に、徳岡委員さんの方から小学校の時間外について質問をされました。校長先生としては、平均としては改善されていると言われました。他の学校においてもそうですが、大栄中学校も毎週1回生徒指導委員会があったり、生徒の状況についての報告会みたいなものがあります。生徒指導委員会とか他にも色々な委員会が集まって会をされる時に、報告はパソコンに入れといて協議だけをする、それを見た上で集まって話し合いをするという風にしていけば、時間短縮にならないかなあと思います。時間を短縮して取り組むことをしない限りは、時間がかかると思います。その時は言いませんでしたが、少しでも効率良く出来るように

工夫してもらえないかなあと思いました。

事務局 提案してみます。

別本教育長 校務支援システムが導入されて、システムの中に回覧のような形で入力して、それを各先生が読まれているらしいですが、中々それが伝わりきれていないと以前聞いたことがあります。

竹信委員 見る時間が無いとか色々理由があるでしょうが、考えていかななくてはいけません。おそらく報告はされているでしょうが、ここでは時間外報告の時間だけを見ても、何に結局時間がかかっているのかわかりません。本当はその辺も含めてきちんと見ていかないと、改善していかないかなあと思います。

事務局 時間外の集計段階では、教材の準備や確か項目ごとで時間を積み上げていると聞いたことがあります。その辺まで踏み込んで分析出来ればと思います。おそらく校長や教頭は、その辺を把握出来ているはずですが、その辺を踏まえた上では個別で教員の方には話が出来ていると思っておりますが、中々それが改善に繋がっていない状況かなあと思っております。

竹信委員 今日の計画訪問で教務の先生の時間数を確保するという意味では、例えばこの教科が少ないから時間数を変更して入れ込む等の作業を、パソコンでぱっとすれば数字が出て来るように何故しないのかなあと普通思います。何故そういうシステムを作らないのかと思いました。そうすると教務の先生も仕事が楽だと思えますよ。あれは確か全部 1 ヶ月ごとに集約するんですよ。国語が何時間、算数が何時間という感じで。そんなことを手作業でしていましたが、今はそういうシステムがいくらかもあるはずなのに気の毒です。そういうことに時間を取られるのではなくて、肝心なことの方に持って行って欲しいなあと思います。

徳岡委員 生徒と一緒にですよ。1 台ずつタブレットが先生にももらえますよ。生徒と一緒に勉強したら良いと思えますよ。

別本教育長 その他、ございますか。(なし)

4 議案へ入ります。

議案第 62 号 北栄町特定教育・保育施設等確認指導監査等実施要綱の制定について、説明をお願いします。

事務局 (資料により説明)

別本教育長 これまで県がされていたものが、法律の改正で町がするようになったということですか。

事務局 はい、そうです。

徳岡委員 今まではどこがやっていたのかなあと思いました。

吉田委員 私立の施設はどうなりますか。

事務局 県の監査とは内容が違いますので、県の監査はこれまで通り実施します。これは新たに国の方からやりなさいということで、お金の流れの部分が中心になりますが、給付費の関係で適正に公定価格が設定されて請求されているかどうか、給付がきちんと使われているのかという監査です。新しく追加されてそれを市町村がしなさいよということですが、県の監査が行われるのでその日程と調整をして、一緒にしなさいよということですが県の監査実地は 3 年に 1 回なので、その他の年は書面

監査ということになっております。

吉田委員 何故私立だけですか。町立は同じような監査が別でありますか。

事務局 町は自分のところお金で国や県のお金に入っていないので、公定価格で国から支払われるお金についての監査になりますので、私立に対しての監査です。

光村委員 町が監査をするというのは、町の監査役みたいな方がいらっしゃるのですか。誰が監査をされるのですか。

事務局 町の教育総務課職員が監査を行います。

別本教育長 その他、ございますか。(なし)

議案第 62 号について、承認でよろしいでしょうか。(承認)

5 協議事項へ入ります。

2021 年度教育委員会予算編成方針及び重点項目について、説明をお願いします。

事務局 (資料により説明)

別本教育長 ご質問等、ございますか。

竹信委員 子育て支援センターの開所時間の変更ということで午前のみ開所というのは、これまでは 1 日開所していたのが半日になるということでしょうか。

事務局 ご指摘のとおりです。やはり午前に来られる方が多いので、昼の時間を何か有効に使えるようにということで、子育て支援センターとしては時間を絞りながら運営できればと考えております。午後からの時間については、こども園を含めて色々と職員や施設の活動を考えているところでございます。

竹信委員 例えば図書館と連携してとか、何かそういう風なことをされておられますよね。支援センターで相談に来られた方に、絵本の読み聞かせをすとか色々な連携で、単発で図書館だけがするという以外にも、前から言っていますが連携して色々なところと一緒にやっていったら、より効果があるのではないのでしょうか。来られる方もあっちでやっとなるからあっちに行きなさいというのも、受益者の方にとってどういう風なことがより出やすいし、出た時に色々と学べるという方が良いかなあと思います。例えば午前だけといっても、午前の中でそういうところと連携しながら活動を行っていくとか、午後であっても人数が少なくてもそういう風なことを用意していますよとか。町民の視点でどうなのかというところを考えながら事業というのは進めていかないといけないような気がします。利用者が少ないから午後からは閉めるということではないと思います。これに限らずそう思います。

事務局 子育て支援センターとしては、自分たちが何の事業が出来るかというよりは、対象となる子育て家庭の方に対して何を提供していくのかというところで考えております。連携できる部分に関しては色々と連携を扱っているところです。無駄という言葉の方は良くないのかもしれませんが、そこは運営で工夫できる部分があるのかなあということで、午後の運営を検討しているところでございます。

光村委員 基本的に子どもは午後から昼寝をしたくなるので、午後開けていても家庭の中でも昼寝をさせる時間があつたりしますので、午前中開所という考えでも良いと私は思います。

別本教育長 今来られているのが、午後はだいたい 1 家庭か 2 家庭です。午前中に連携した講

座はしております。

竹信委員 わかりました。

別本教育長 午前中だけ開所にして、午後はその1つ上を書いてある「こども園通級指導教室の充実」とありますが、今の体制では4歳児ぐらいまでしか対応出来ていません。本来の目的である4,5歳児の通級指導をやろうとすると、支援センターの方にも関わっていただかないといけません。今通級指導教室を月曜日に開所しておりますが、そういうところで支援センターの職員を通級指導教室の方にも関わらせたいということなんです。

竹信委員 令和4年度から文科省の方が、小学校高学年の教科担任制が導入されてくるようです。来年1年しかないわけですからそういうことを念頭におきながら、出来ることからしていく、例えば技能教科を小学校でもやっておられると思いますので、進められるものは来年度から進めていただけたらと思います。4年度になってから慌ててされてもね。順次出来るところから柔軟に進めていくということが必要かなあと思いました。教員業務アシスタントは今半日勤務ですか。それを7.5時間で1日にするということですね。

別本教育長 教科担任制についてですが、既に英語については北栄町の小学校には教科担任が入っております。後の科目についても北栄には入っておりませんが、少しずつ増えて来ているのが実態です。昨年は大栄小学校で今の体制の中で、この先生は国語でこの先生は算数みたいな感じで、中での教科担任制というのはされてきました。

竹信委員 その辺りを継続して取り組んでいかれたらと思います。続いて「湖南省学校交流の実施」についてと、生涯学習課関係の「湖南省子ども交流事業の相互交流の実施」は今年度は中止になりましたが、来年もしないということですね。「湖南省学校交流の実施」についての方は、来年度は行うということですね。

事務局 生涯学習課が行っている湖南省子ども交流事業につきましては、夏休みに交流をしていくんだということで相互が募集形式でやっておりました。湖南省は4校か5校小学校がありますが、北栄町は2校という中で参加人数が限られて、交流の意味では部分的になってしまっているだろうということでそれぞれの考え方もあり、結論としては一回休憩をしましょうということで、従来のものは中止になりました。一方学校同士の交流というのは、継続性を持ってやれば非常に効果があるのではないかとということで、一昨年度に別本教育長と湖南省の教育長がお話をされて、実際の行き来は別として、何らかの形で交流すべきではないかということで、検討していこうということがありました。形を変えて学校同士の交流ということのを来年度始められるということで、計画を検討されているのではないかと思います。

竹信委員 今年度未実施というのは、これからするということですが。

別本教育長 やりかけたのですが、コロナで具体的な検討自体が出来ていません。

竹信委員 行ったり来たりするということですね。

別本教育長 そこは色々やり方があると思います。

竹信委員 湖南省はいくつか学校があるということですが、どういうやり方を考えておられるのでしょうか。4つあったら1年ごとに違う学校なのか、湖南省の中の1つの学校と

継続してやっていくのでしょうか。

別本教育長 大栄中学校は修学旅行で東京へ行きます。港区のお台場学園港陽中学校と交流をしておりますが、実際に子ども達を湖南省へ行かせるというのは中々大変な話です。リモートでも良いですし、生徒会活動でのお互いの交流でも良いですし、何らかの形での交流が出来ないかなあと考えております。

竹信委員 出来ないかなあではなくて、するんだということですね。

別本教育長 はい。

竹信委員 継続というのは子どもがずっと関わっていくのなら良いけど、1年間交流して次の学年がまたやりますというのは、外から見れば確かに何年もやっているように思いますが、積み上げの形にするのは中々難しいところがあるなあと思います。積み上げではありませんよね。

事務局 先程教育長の方からありましたが、お台場繋がりで港区のお台場学園港陽中学校と大栄中学校が、修学旅行で交流するということが始まりました。確かに1年に1回ということですが2年前から始まりまして、お台場で繋がって共通点があるということで、交流をした後に子ども達が自分達で交流をしたりだとか、学校単位での関わりというのはお互いを意識し合えるような状況もあります。東京の子どもと北栄の子どもが住んでいる状況が違う中で、お互いに影響を受けながらその後やりとりをしているということも実際にあるようです。そういう意味では効果があると思っております。人と人がずっと継続して交流していく効果もあれば、一つの縁でその後はそれぞれが交流していく、学校単位ですと関わっていくというメリットはあるということです。

竹信委員 反対ではありませんが、例えば大阪の学校は農家に民泊するんですよ。来年どうするのかはさておいて、修学旅行で民泊を何軒もされて、子ども達の意向というのは本当に農家へ民泊したいのかというところ色々考えはあります。全然したくないのにさせられている、自動車から降りて来ないという子もおります。そういう子達も受け入れました。意味があるのでしょうか。皆まとめて去年は高知に行ったので今度は鳥取に民泊だというのは、計画ではなくて教員や学校サイドの考えです。そもそも1人1人をとっているのに、SDGs だってそうですよね。1人1人取り残さない、1人1人の想いを大事にするわけですから、別に農業体験でなくても色々な会社があるので、自分たちがやってみたい体験がたまたま鳥取県の北栄町にあってそこで体験をしようということなら私も良いと思っておりますが、皆が農業体験をしようというのはどうなのかなあと思います。そういう風な視点もあるとは思いますが。体験をしてみて全然ダメだったですということはありません。鳥取の良さの星空が見える、海がきれいなど向こうで経験したことのない色々なことを経験させると、帰ってから手紙をくれたり色々なことをしてくれます。心には残ると思っております。続いてですが、台湾の人達とずっと交流をしていますが、来年度はありませんよね。

別本教育長 来年度というか今年はありません。ただこれはやらないのではなくて、毎年やることなので重点に挙げなくてもするんだということで挙げておりません。

竹信委員 わかりました。英語のスピーキングの力やヒヤリングをというのなら、県の事業に乗っかって参加できる子どもは参加して下さいというよりも、町独自でALTであると

か鳥大の留学生などは夏休み暇ですからそういう方達をアシスタントにして、1泊2日ぐらいで英語合宿みたいなものをやったらおもしろいのではないかなあとと思います。県もやっておられると思います。ダイナミックにそういうのをやってみてはどうでしょうか。

事務局

今竹信委員は、ご提案をさせていただいているということですよ。

竹信委員

はい、そうです。台湾の人達との交流があるのかもしれませんが、向こうに行ったら基本的には日本語が使えないわけで、台湾までは行かせることが出来ないけれども、町内の子どもを集めて実施することも出来るかなあと思いました。あまりお金をかけずに身近なところで出来るようなことを、取り組まれたら良いかなあと思いました。続いてですが、地域副読本は良いものを作られています、これの活用状況は学校の教育課程の中に位置づけられていると思います。実際に活用もあると思いますが、何年も活用が続くのはどうなのかなあと思います。

事務局

そこは難しい面もあります。良いものを作ったという評価は色々なところからいただいております。今年度も学校へ活用をお願いに行っております。地域副読本、町の姿の方につきましては、小学4年生でその授業がありますので活用をお願いしておりますし、歴史人物編については小学6年生が教育課程の中で対応するというように使っていただくように考えております。そういう状況の中で、年度初めをお願いしておりますので、今どういう風な状況なのかは確認させていただきながら、来年度に活かしていきたいという部分がございます。学校側の方も先生の授業の進め方で、中身としては良いけれども使いづらい部分があるなどの色々なご意見がありますので、早い段階から活用していただくというのを学校全体で認識していただきながら取り組むということに、もう少し注意をしないといけない状況があるだろうなあと思っております。それ以外の活用の仕方としては、現在大栄中のコミュニティ・スクール等でも地域の人が良い資料だと言って下さっていますので、コミュニティ・スクールの取り組みの中で、地域の方がこういうものを使って学びの材料にするなど活用の仕方は色々な方法が考えられていくのだろうなあと思っておりますので、アイデアを色々いただきながら取り組みを進められたらなあと考えております。少しずつは進んでおりますが、課題も抱えている状況がございます。

竹信委員

4月になってからお願いに行くのでは遅いと思います。基本的には年間指導計画を立ててしまっているの、2、3月辺りまでに言われた方が良いと思います。

事務局

ありがとうございます。おっしゃるとおりで、昨年度は3月末に歴史人物編が出来ましたので、どうしても4月以降になってしまいました。今年度についてはどう活かされているのかを教えてくださいながら、来年度のお願いをしていかなければいけないと思っております。

竹信委員

ありがとうございます。続いて「発達支援システムの構築」についてですが、だんだんと充実して体制も出来ていると思いますが、来年度はどういう風なところを目標にしながら進めていこうとされていますか。2020年に未実施となっていますが、それまでに努力目標を掲げて取り組んで来られていると思いますが、その辺りいかがでしょうか。

別本教育長

発達支援システムというのは、別にコンピューターのプログラムを組むシステムとい

う意味ではなくて、発達支援をサポートするようなことをしましょうということで、義務教育までは出来ていますが、義務教育終了後ということで高校、高校から社会に出た後までの方々への支援をすることを目指しましょうということで行政報告でも報告しましたが、発達支援連携協議会というのを今作って、それを以て健康推進課、福祉課と連携しながらやっております。そこが1つの組織の中でずっと見守っていくことが出来ないかなあというところが、このシステムという意味合いです。毎年目標として挙げますが、具体的に十分取り組めていないということです。ようやく発達支援室の方が高校訪問をしております。中学校までの様子を高校に伝えて、高校に進学してからの子ども達の様子を聴き取ってというところまでは今やっと出来たところですよ。それを今度は社会に出た後、引きこもりとか色々なことにならないように、なった子どもに対してはまた社会に帰って来てくれるような手立てが出来ないかなあという、そういう組織を作りたい、そういう流れを作りたいなあというのがこのシステムの構築という意味でございます。

竹信委員 これは教育委員会が中心となるのでしょうか。

別本教育長 そこはまだ十分話が出来ておりません。

竹信委員 2,3日前の新聞に前岡ドクターが退職されて、ぶどう園を作っておられます。そこに就労ではありませんが体験等で、障がいのある方等が来られているようです。それをやろうと思っても教育委員会はそこまで出来ないのではないのでしょうか。そこに今度は役場の中の部署だけの協力ではなくて、より広い関係機関とも連携をするようなところを作っていくことが一番有り難いですよ。

吉田委員 面倒を見るという意味ではなくて情報提供をするという意味では、教育委員会の担当職員さんとか専門の方がそういう情報を持っていることによって繋がっていくという意味では、面倒を見るという意味にもなるのかもしれませんが、情報を持っているということが大事であって、それをいかに当人や保護者さんに伝えていくかということでシステムと言われるのであれば、それが一番かなあと思います。目はそこそこかけてもらっていると思います。高校に行っても社会人になった時でも、ある程度の目は学校なり職場なりで目はかけてもらっていると思います。ただそこまでに繋がる場所の過渡期の時に、そういう情報がいかにあるのかを保護者さんは欲しいですが、それを知るところが無かったりします。教育委員会等がそういう情報を持っているということであれば、教えてあげるというシステムを持ってもらえるのは助かると思います。

竹信委員 入る方はこども園にいる子どもから色々な対応をしていきながらずっと連携をしていきますが、今度は出た後が難しいと思います。今でいくと教育委員会にも情報を流してもらえようように少しずつなっているという状況ですよ。各高校に進んでいる子どもの情報も、個人情報ですから教育委員会に報告しないといけないということではありませんよね。中々そのところは難しいと思います。それが少しずつ繋がりが出来るようになってきているということですね。

吉田委員 学校だけではなくて、そういう専門の方が教育委員会におられるということなので、そういう方に相談も出来るという体制があると良いかなあと思います。

竹信委員 そうですね。後は教育委員会だけが情報を共有するだけではなくて、問題はしっか

りと次の段階を就労に向けてとか、就労した後もサポート出来るような体制をどう作っていくのかということですが、とても良いことです。

別本教育長 システムではなくて、今言われたように体制という言葉に直した方が良かったかもしれませぬ。湖南省のやり方がこういうやり方だったので。

光村委員 「特色ある園づくり推進事業の実施」についてですが、これは学校と同じような感覚で園長さんにプレゼンをしていただいて、予算の範囲内だったら何園でも出来るということでしょうか。例えば予算がオーバーしてしまったら、1つの園はカットという形になりますか。

事務局 今年度は100万円の予算を、小中学校3校で分けた形で行いました。来年度こども園は4園で分けることが出来るのか、1園に絞るのか、また検討が必要だと思います。基本的には学校と同じようなイメージで考えております。

光村委員 できればこの園にも、してあげられたら良いなあと思います。フッ化物洗口を取り組んでから、私達も出来たってことでそれきりにしてはしておりますが、その後の経過をあまり聞いておりません。継続と書いてありますが、あれだけ先生方の負担が大きいということが言われていて、今現在でこのフッ化物洗口は順調にいつているのか、改善しないといけない点があるのか、その辺りどうなのでしょう。

事務局 今年度も昨年度に引き続き実施が来ております。年度初めに学校との進め方にあたって色々調整が必要だったので、実施時期は6月にずれ込んでいたかと思っております。基本的に保護者の皆さんについては、こども園から実施しておりますのでご理解はいただいていると思っております。学校の方でも昨年もしておりますし、今年については新しく来られた先生には慣れていただきながら実施は出来ていると思っております。今は大栄小学校が月曜日、北条小学校が火曜日に実施しております。来年度も同じような形で出来ればなあと思っております。本当は2学期中に一度学校と反省会ではありませんが、今の実施にあたっての問題点や課題が確認出来るような会が持てないかなあと思ひながらまだ出来ておりませぬ。色々声を聞きながら来年度も実施したいと思っております。

光村委員 私もすっかり忘れていて、フッ化物ってそういえば順調に出来ているかなあと思っております。状況を把握していただいて、改善点があったら改善をしていただかないといけないかなあと思ひます。続いてですが、安全で快適な教育施設の整備のところの重点施策は、「大栄小学校、大栄中学校の長寿命化に向けた検討に着手」とありますが、これは検討であって新規は「北条中の大規模改造の実施」というお考えでしょうか。

事務局 4校を年次的にどこで行うのかということですね。来年度は北条中学校の順番を向かえるということになります。考え方としては4校全てで長寿命化や必要な大規模改修は、年次的に行っていきたいと思っております。

光村委員 大栄小と大栄中だけではないということですね。

事務局 はい、そうです。

別本教育長 重点施策というのは基本計画というのを作っておりますが、そこに挙がっている重点施策で、これは毎年同じ項目です。ここは変えておりませぬ。来年度の終わりに新しいものを作るので、また変えないといけないと思っております。基本計画の重

点施策というのは、計画した時点で作ったものをそのまま載せているということで、来年度特に重点施策だということではありません。

光村委員
事務局

わかりました。ふるさとかるたは完成しましたか。
まだです。

光村委員
事務局

来年配布をされるのでしょうか。全戸配布は出来ますか。
今年度は 200 部印刷予定にしております。全自治会にはどうなのかなあと今思っているところです。実は応募してもらって採用になった人が思った以上に多くて、子ども達にちょこちょこ「自分の書いたかるたはどこにありますか？」と最近よく聞かれます。今第 1 項で印刷にかけています。それが何項にもなるかと思えますし、絵札を書いた子ども達にも成果物をあげようと思っております。その数が当初の予定より多くなってしまいました。例えば町内に配布するとなったら数が回りきらない可能性もあります。まずは作ってくれた子ども達、放課後児童クラブ、ほくほくプラザ、子ども対象の事業などで活用できる場所、高齢者施設、今は 43 自治会がいきいきサロンというのをやっておられますので、いきいきサロンでも活用していただけたらなあと思っております。予定としては 2 月頃、学校の卒業前までにお渡ししたいなあという風に思っております。

光村委員

結構お金がかかるものですね。せっかく作ったので出来れば小中学校の家庭に配ったりしてもらおうと良いなあと思いました。家庭の中で遊べると思うので良いなあと思いましたが、数に限りがあるのでしたら仕方ありませんね。

事務局

来年度以降に印刷することを考えないといけないのかなあと思っております。

竹信委員

以前尋ねた時には、学級に 1 つか 2 つ配布すると聞いたような気がしますが、それでかきた大会が出来るのだろうかと思いました。今言われた場所だと数が全然足りません。盛り上げる為には、やはりある程度の量で配っておかないと難しいと思います。本当に一部の取り組みになってしまいます。

光村委員

せっかく良い物を作られたので、町内にもう少し浸透出来るような配布を考えてもらったら良いかなあと思います。

別本教育長

度々活用していただくのが本来ですが、最初に何個かは学校に配ろうと思っております。使う時には公民館や図書館に置いて、そこから借りて数を確保してもらうことでやらないと、1 つ作るのに結構なお金がかかりますので。

事務局

そうですね。

別本教育長

ましてや全戸配布となると、何百万単位のお金がかかります。

光村委員

全戸まででなくても、小学校の家庭数はあっても良いかなあと思います。

徳岡委員

土曜保育は、ちなみにどのぐらいの家庭が利用されていますか。土曜日まで仕事をされているところの家庭が、預けたいからということですよ。大分週休 2 日制が定着してきているかなあとは思いますが、家庭によっては接待業やデパートとかだと逆に土日が休めないというところがあります。北条と大栄の 1 箇所ずつぐらいでという話でしたが、町 1 つでは出来ないかなあという思いがありますので、具体的にどのぐらいのかなあとお聞きしたいです。今後検討されるということですので、どのぐらいかということと、場合によっては親が休みたいから預けるというのはもってのほかだと思いますが、もしもそういうことがあればそれはまた違うのではない

かなあという思いがあります。町で1つということも踏まえて検討されてはどうかかなあと思います。続いて「小学生のヘルメット着用の推進」についてですが、これに併せて自転車に乗るのなら、自転車のルールを小さい時から教える機会を作って欲しいというのが希望です。弱者弱者と小さい子と老人は言いますが、やはり大人も子どもも1つのルールの中で生きていかないといけません。小さいから許される、お年寄りだから許される、配慮をするというのは必要なかもしれませんが、最低限のルールは守らないと事故に繋がりますので、教育していただけたらなあと思っております。続いてコミュニティ・スクールについてですが、学校の中で〇〇教室みたいなものが出来ないのかと、ちらっとお聞きました。すごく良いなあと思いました。コミュニティ・スクールの目的は、年の離れた年齢の違う人達が、いかに関わっていくのかということだと思います。学業も必要かもしれませんが、人との付き合い方というのは同年代だけではなくて、必ず社会に出たら年齢の違う人と付き合い方いかないといけません。学校にそういう人たちが入って来れるということは、何か機会を作れば良いのかなあと思います。学校の中でそういうことをどこまで許されるのかということがありますが、その辺を上手く利用できないかなあと思います。小学校の運動会の時はものすごい保護者の方が来られます。保護者の人や地域の方たちの種目も加えられないかなあと思います。学校の中でやれるかどうかや事故があった時など色々あるのかもしれませんが、繋がりというのを少しずつ入れ込んでいくことが、これからの世の中には必要ではないかなあと思います。図書館でもそうですよ。本を借りるに図書館に行くよりも学校にも図書館があるのなら、その辺りをもっと利用出来ないかなあと思います。将来的には学校にある図書館も、もう少し連携が出来たら良いかなあと思います。

竹信委員 自転車のヘルメットは良いですが、保険加入というのは教育委員会も勧めておられますか。

別本教育長 教育委員会が取り扱っているということではありませんが、自転車保険に入って下さいねというお願いは、PTA総会の度には保護者の方へは伝えております。

竹信委員 これが大事ではないかなあと思います。未就学児のヘルメット着用は良いですが、そういう子も自転車保険には加入できますが、ヘルメット着用と併せて補助を出します、保険の方も併せて入ってもらわないとね。

徳岡委員 車の保険とくっついているものもあります。子どもが自転車に乗っていて事故を起こしてもセットになっているものがあると思います。意外と知らない方が多いです。

光村委員 自転車に乗っていて人の車にぶつけてしまった、自転車に乗っている子が相手を賠償することは自分の自転車保険でないと出ません。人に対して賠償しないといけない時には、自分の自転車保険に入っていないといけません。

徳岡委員 保険も各家庭で自分たちの都合の良いものが選べるようになっていきます。

竹信委員 ヘルメットは着用させるのに、保険加入も勧めないとね。教育委員会がお金を出すとかではなくて、ましてや小さい子どもの運転が危ないわけですから。

別本教育長 県条例で自転車保険に入りなさいという条例はあります。ただ努力義務です。自転車保険に入らなければならない、義務化をしている条例を制定している都道府県は毎年少しずつ増えています。鳥取県はまだ努力義務で留まっています。「未就学

児のヘルメット着用の推進」についてですが、これまでは小学校でやっていますが、支援を補助して下さいという数が中々出て来ません。小学校へ上がる前にヘルメットを購入している方がかなりおられます。小学校段階でヘルメットを購入する人は少ないです。それなら最初に乗るヘルメットを購入した時に、支援してあげた方が良いのではないかとこのところからの発想です。ヘルメットにも保険がかかっております。ただ保険の有効期限は 3 年です。3 年経ったらヘルメットが使えるのかといったらそうではありませんが、ヘルメットを 1 回下に落としたら安全基準は満たしていません。無いよりは付けていた方が頭は守られます。先程徳岡委員の方からあった各種講座等の学校での開催というのは、生涯学習課や公民館等で検討していただくようにしておりますので、具体化になれば良いなあと考えております。その一環もあって、先日社会教育委員会兼公民館運営審議会を大栄中学校で開催しました。その後子ども達の授業を観てもらったり給食を食べてもらったりしました。

その他、ございますか。(なし)

この重点施策、重点実施事業については、12 月 2 日に開催します総合教育会議の町長との話の中で、議題に挙げて議論をしたいと思っておりますのでよろしくお願ひ致します。

大谷こども園在り方検討について、説明をお願いします。

事務局

(資料により説明)

別本教育長

吉田委員、何か付け加えはございますか。

吉田委員

私は保護者さんの意見を始めてお聞きしました。前回光村委員さんは聞かれたと思いますが、その時と同じような雰囲気だったのでしょうか。

事務局

大筋はそうですね。

吉田委員

話の内容を保護者さんから聞く中で、教育委員会の方がすべきこと、私達が考えるべきことはたくさんあったと思います。ヒントをもらったなあと思うことが私はありました。教育委員会さんの方から出る話は、小さい規模というのはデメリットが多い、大人数で保育をした方が保育の質が上がるという話をされますが、保護者さんの方は、その規模によって保育の質が変わるとは全く思っておられませんでした。小規模でも十分良い保育をしてもらっていると言われていました。小規模だから良いということではなくて、大谷は小規模になってしまっているのです皆さんが大規模を知らないんですよ。大規模を知らずにいて、小規模で十分満足する保育をされているので、これで良いよという現状維持を求められているだけです。大きいところに行ったらどうなるのかとか、自分たちの子どもが園が変わることによってどうなるのかという不安を本当は皆さんが持っておられます。不安を持っておられる中で、教育委員会さんの方から不安に寄り添うような話が出たかといったら、全くそれもなく小規模を経験されている保護者さんの話を聞いておられたので、同じような意見しか出て来ないと思います。大谷じゃないところから来られた保護者さんの意見が何件かあって、他の園を見学したり上のお子さんが他の園に行かれた保護者さんがおられました。話を聞くと益々大谷が良いなあとという話になりました。来られた保護者さんは、大きな保育所とか上のお子さんが通っておられた保育所で、あまり

良い保育を見て来なかった、保育所の見学に行った時に保育士さんがあまり良い行動を子どもに対してされていなかったのを観られて、「こんなところに子どもを預けられん」って思い、色々な園を観た中で大谷を観られて大谷はとても寄り添った保育をして下さるので、大谷で見てもらいたいとのことでした。移動してくることにすごく不安があったそうです。初めての保育所だし誰も知り合いがないので不安だったけど大谷に入られたことによって、地域の方、保護者の方、先生からたくさん声をかけられたり子どもを受け入れてもらったりということで、本当に良かったと言われました。あの規模で保育をしてもらえるということに、とても感謝していると言われました。小規模だから良いということよりは、手をかけてもらえるという状況がとても有り難いと言われていました。その話を聞いた時に、規模で質が変わるということはもちろんありません。ただ先生の負担は確かに違います。以上児と未満児とは手のかけ方が全く違うので、未満児さんだったら少ない方が良いし、以上児さんだったら多い方が良いというのはわかりますが、大谷に限って言えばそれが出来ません。それならそこをどういう風に擦り合せていくのかという話を本当はした方が良いです。北条もそうだったじゃないですか。1年間だけ幼稚園に行かせる、それは理にかなっていると思います。最初は北条にたくさん保育所があった中で小学校に入る前に、大人数である程度の経験をさせるという意味で幼稚園に1年間だけ預けるのですが、そういうことだったのかと思いました。大人数での学びを経験させるために、幼稚園があったのかと今だったら思います。昔は何で面倒くさいそういうことをさせるのかなあと感じていましたが、何か大谷に対しても摺り寄せをすることが大事なかなあと思います。それがいわゆる(1)の「今後の方向性(町全体)」の「人数規模」を考えるきっかけになれば良いかなあと思います。もう一つ言えば、北条は大きすぎるという話を昔から私は聞いていました。この間保護者さんからその話を聞いた時も、やっぱり大きすぎるのだろうなあと思いました。アンケートの設問に保育所を減らすという設問はあったけど、増やすという設問はありませんでした。その代わりにバランスを取るという設問がありました。これが増やすということなのかなあとは思いますがわかりにくいです。町内全体でバランスの良い規模にするというのが、増やす選択肢なのかなあと思いましたが、これだと増やすという選択肢を思っている人は、「北条が大きすぎて分けて欲しいわあ」と思っている人は、これを選ぶのかといたらどうなのかなあと思います。このアンケートではバランス的には同じぐらいの人数結果です。現状のままで良いというのが一番多いので、3割の人はこのままで良いよと、残りの3割の人は施設数を維持して運営内容を見直せば良いのではないかと、運営内容を見直すというのは多分保育士さんの数とかやり方だと思えます。そういうところを考えていけないのに、規模や人数と言われても、大谷の人は納得されません。倉吉のやり方も色々ありますので、倉吉の話を大谷の方にされたらどうかなあと思いますが、それはまた別の機会にてもらえたらなあと思えます。「子ども達の育ちのために、保護者として優先したいこと」についてですが、一番は子ども達が穏やかに過ごせることだと思われています。保護者さんが言われたのは、自分のお友達のお母さんから聞いた話で、他の保育所はお帳面に先生の言葉が書いてない時もあると言われました。大谷ではもちろんそうい

うことはあまりないらしいです。先生の負担軽減の為に、お帳面を書かなくても良いという指導をされていると言われました。すごいその時に反発がりましたが、保護者からしてみれば、唯一先生とのやり取りがお帳面だったりします。先生の負担軽減とはいえそういうことを勧めているのか教育委員会は、ということになりました。教育長さんは連絡が必要な子にはきちんと書いているけど、そうそう必要でない子もいるので、忙しい中でそこまで手をかけなくても良いのではないかということを経営改善として多分言われたと思います。保護者さんからしてみれば、そんなことはあってはならない、教育委員会としてやらないといけないことは、保護者、子ども、先生をいかにより良い環境で保育をしてもらいたいということなのに、必要でないことと思われてしまうのが、すごく違うと言われました。私もそれは違うとすごく思いました。保護者さんが安心するためには、先生や保育園とのやり取りはすごく大事です。家の中でも安心して預けられているという気持ちを、そういうところでやり取りをするわけですので、業務改善をするのはそういうところではなくて、事務仕事や事務の方を補佐で入れたりされると良いと思います。そういうことに業務改善をしていけば、先生方は余裕を持って仕事ができるのではないのかなあと思いました。他の園で子どもに対してあまり良い行動をされなかった保育士さんの話をされました。本当ならその保護者さんもその話を言いたくないと思いますが、何故自分が保育所から変わったのか、何故自分がその保育所に行かなかったのかということ伝えていかないと変わらないと思って多分言われたと思います。何故先生は子どもにそういう行動をしたのか、初めから子どもをそういう風に扱おうと思って保育士になった先生は 1 人もおられません。絶対子どもの為に何かをしようと思って保育士になっておられます。何故その人がそういう行動を取られたのかの理由を探さないといけないのに、教育委員会で事務されている方は、現場で何が起きているのか具体的なことまでは多分わかりません。保護者とか関わっている先生達の中では、本当にえらくてえらくてそういうことが出てしまうということは絶対にあります。それは仕方のないことだと思いますが、そこでそれを放置してしまうとそういう場面を観た保護者さんは、本当に不安でしかなくなると思います。大事なのは保育士さんの環境改善、保育士さんが子どもにきちんと向き合える、保護者さんにきちんと向き合えるような環境を作ることが教育委員会として大事なのではないのでしょうか。地域としての話になりますが、地域として大谷は保育所に愛着を持っておられるので、是非残して欲しいという想いは確かにたくさんあります。地域として何が出来るのかと云ったら、地域としてと言うよりは、地域として保育所があって保育所の子ども達に声をかけたり顔がわかったりすることだけで、十分地域としてやれていることはあるのかなあと話だったと思います。特に何かに関わらないといけないというよりも、子どもの顔が分かるおじさんやおばさんがいるということで、大谷の中でそこで育った子ども達がまた地域に帰って来る、こういう人たちがいるところで色々な経験をさせてもらったことが、喜びとなって地域に帰って来るのではないかという話が出ました。これは私も前から言っていることですが、教育委員会だけでは議論出来ません。今度の町長さんとの話合いや広い目を見て、議論をしていかないといけないことかなあと思っています。地域の中で保育所があるということに対

しての役割が、どれだけ地域活性化とか、今後若い人がここに定着してくるのか、強いては町の税収が増えるのか増えないのか、人口が減少するのか増えるのかというところの瀬戸際に大谷があるとすれば、そこもこれからまた議論していかないといけないことではないかという提案をされていました。一番心に残ったのは、サッカーのスポ少指導者をされておられるお父さんの話があって、自分はスポ少の指導者をボランティアでやっている、別にお金をもらっているわけではないし、子どもが好きで子ども達が将来良い大人に育ててもらいたいという想いで指導をしていると言われました。多分保育士さんとかも、そういう想いでされていると思いますが、そういう人達が子ども達に関わる時に本当ならそういう気持ちを持っているはずなのに、その気持ちだけでは保育が出来ていないということに対して、例えば教育委員会は給料を上げているので、新しい保育士さんもそれで来てくれるのではないかという施策はされていますが、お金ではなくていかに保育に関わることにやりがいを持って取り組めるのかという環境を作って欲しいということと言われました。自分もそういう環境を作ったら、よそからもこのチームで指導したい指導者さんが来ていると言われました。魅力ある指導が出来る保育環境を作るべきだ、お金とかではないと言われました。皆がそこをきちんと見ておられるのだなぁと感じました。これからまだ教育委員会として取り組まないといけないことはたくさんあります。1 つは保育士の確保や保育士の質、環境の確保、ICTを入れたりどうやったら保育士さんが時間の余裕を持って保育に取り組めるのかを作ることです。2 つ目と3 つ目は課長が先程言われましたが、他への保護者にも同じように今の保育についての意見を聞いて欲しいという意見があって、大谷だけ聞かれてじゃあ他の保育所はどう思っておられるのかと聞かれた時に、聞いていないので答えられませんよね。大規模園の保護者さんが今の保育にどういう意見を持っておられるのかというのを聞いておられないので、「何故大谷だけ聞くのか、他の園にも聞いて下さい、そうじゃないと比べられない」という話ですよ。出来ることとすれば他の園の保護者さんにも同じように、保育についてどう思われているのかということを知ることがあれば聞いてもらいたいということが、大谷こども園の保護者さんから提案がありました。アンケート公表の仕方も、大谷こども園の名前を出して欲しくないと言われていました。アンケートの最後の方に、大谷こども園は廃園した方が良くアンケートをされた保護者さんの意見として書いてあります。やっぱり大谷って少ないからダメなんだと思われる、誘導ではないけどそういう風に思われてしまうのではないかとということで、廃園にすべきとかそういうことをアンケートで皆さんには渡して欲しくないということでした。教育長さんの方が、これを隠してしまうと情報を隠すことになると言われました。アンケートとしていただいた意見を作為的に情報操作することがあるので、それはしてはいけないことだと言われました。それには納得されていないところがありました。例えば大きなこども園で、子どもが嫌な扱いをされた時にもこども園の名前を出しておられました。園の名前を言われたということは、そこをなんとか変えて欲しいという気持ちがあるわけです。後から聞くと、「きちんと考えたかどうかすごく不安です。本当は言ったらいけないかもしれないけど、伝えておかないとわかってもらえない」ということで敢えて名前を出されました。例えば無記

名のアンケートでこういう意見が出て、大谷こども園と出ているのであれば、異を消して名前を出して意見を言われたことも公表しないといけないのではないのでしょうか。情報操作と取られるのなら、このアンケート自体を出してはいけないという話にもなってきます。このアンケートの取り扱いについては、教育委員さんの中でしっかりと話をしてもらいたいなあとということがあります。保育の質を議論しても、大きいところも小さいところもメリット、デメリットはあります。そこを議論してもぶつかるだけで、摺り寄せは出来ません。町の公立の保育所としての在り方を検討する時に、大谷が無くなったら大きい園ばかりになってしまう、大きい園ばかりで果たしてこれからの保育のニーズに応えられていけるのでしょうか。小さい園を希望される方とか、大きい園では出来ない丁寧な保育をして欲しいという保護者さんや子どもの為のニーズにこれからどう応えていくのかという時に、大谷こども園が果たせる役割があるのか無いのか、そういう議論をしていくことが良いのではないのかなあと思いました。

竹信委員

保護者にアンケートをしたことは、まず保護者に返すということが原則です。これは絶対です。大谷だけ返したことに返しませんというのはあり得ない話です。大谷の方だけの意見を聞いて、実際に大人数の園の様子を入れて変わって来られたことはわかりますが、言われるようにメリット、デメリットがありますのでそれは無理です。基本的には定員というのがありますよね。学校も小規模であっても定員があります。由良こども園だって収容人数というのがあります。その中であれば、基本的にはそういう風な形になりますが、今は人数が減ってきています。質というのは手を掛ければ掛けるほど、子どもや親から見れば喜ぶわけです。当たり前です。学校でも少人数と言われているのは、それだけ手を掛けて力を入れている、遅れを取り戻しています。所詮は人数も予算も限られています。大栄小学校が当時合併する時も、統合した方がメリットも大きいということでされたと思います。一人一人の思いは確かに色々な思いがあります。十分納得してもらえるように説明をする、説明しても難しいだろうという部分もあります。

吉田委員

説明の仕方ですよ。例えば倉吉はこの前新聞に園の統合案が載りましたが、倉吉の方に話を聞きました。倉吉がどういう風に保育所が合併するのかの意見を聞かれましたか。

事務局

地区を何かにするというような話ですよ。

吉田委員

どういう地区に残すのかという話だったです。市の中心部に住んでおられる方はたくさん民間のこども園があるのでそこに任せて、公立の保育所をわざわざそこに残す必要はないとのこと。倉吉市が考えないといけないのは、山間部の方の山から降りて行かないといけないようなところに住んでおられる方の保育をどう充実するかということで、その案として8つある保育所を4つにすると言われました。そのうち合併する場所は、北谷、高城、社のあの辺りに1つ、後は関金の方に1つということ。山間部に対しての保育を重点的に充実していこうということで合併をするという案です。倉吉市の方針としてどこに保育の重点を置くのかといたら、山間部の民間が手の届かないところで充実をしていって、その子ども達の学びを保障しようということが合併の目的だそうです。さらに言われたのは、こども園を作るか

ら保育所を全て無くしてしまうのかといったら、すぐには無くせずに年長さんとか残っている子達で残りたいという子達がいれば、保育所はそのまま残してすぐすぐ無くすわけではないと言われました。やり方です。どういうやり方で保育所を作っていくのか、どういう目的や思惑を町が持って子育ての体制を作っていくのかということにまだ北栄町は説得力がなくて、そこが伝えられて無かったです。この前山守保育所というところが無くなりましたが、その保育所はおじいちゃんおばちゃんが送迎をされていて、山守が無くなって関金に合併しました。「中々送迎をようせんわぁ」という意見が出たそうです。そしたら今はマイクロバスを出して、送迎をされています。合併して何年も経ちますが、今だにそこは送迎をされているそうです。というように保護者が不安に思っていることを、どうやって補っていけるのか、どういう風な気持ちで寄り添っていけるのかということところがまだ無くて見えて来ません。それだと何故こんなに良い保育をしている保育所が無くならないといけないのかと保護者さんは思われます。

光村委員 大谷は由良に近いですね。保護者の意見を聞きに教育委員として出て行って、保護者の方がどういうことに具体的に不安を持っているのかということは聞いて来られましたか。

吉田委員 選んで小規模のこども園に来られた方ももちろんおられます。ほとんどの方は小規模しか経験されていません。例えばこの前の話し合いの中でも、大きな園に行ったら先生が手が掛けられなくてお帳面も書いてもらえない、運動会になると皆がわぁーっと走っていて、自分の子どもがわからないと言われました。

光村委員 デメリットの話ばかり聞いて、不安になっておられるわけですね。

吉田委員 良いところも本当は伝えれば良いのですが、良いところは良いところとして捉えられないんですよ。結局寄り添っていないので。

光村委員 話し合いをもう少し具体的にしないと、ただ一方的にデメリットばかり言われて、「やっぱり大谷の子は外に出れんわぁ」ということでは親展しません。教育委員が一番 4 つの園を觀て来ているわけです。4 つの園を觀た中で、大谷こども園は年長児が 3 人になってしまいます。3 人の年長児で、本当に保育がきちんと受けられるのかというのをすごく感じたところがありますよね。そういったところをもっと保護者と話し合いをしないと、そっちの不安の方も大きいと思います。そういうところをもっと話し合っていないと理解はしてもらえません。例えば来年でも年長さんが何日間か合同で由良に行くとか、そういう経験をもっとさせてあげて慣らす、保護者も慣れるということをしていかないといけないと思います。

竹信委員 大谷に預けておられる保護者さんから見れば、すごく関わってくれて良いと思いますが、毎日記録をすることが当たり前かと言ったら、そうではない私は思っております。小学校では 1 週間に 1 人ずつ全員の分を書けば良いぐらいのことをして、書いている時間は子どもと関わるというようなメリットがあるわけです。毎日書いているから、これがベストですということはありません。大谷の保護者さん、あるいは大きなところであっても、体験を何回もした方がそれは良いと思いますし、ビデオでも活動の様子をどんどん情報提供して少しでも理解を図る、来年の途中まででも是非説明をしていながら思いの不安を少しでも払拭していく、全部払拭

することはあり得ないわけですから。そののところに近づいていくということしか出来ないのではないのかなぁと思います。例えば先輩の1,2年生になった子どもの保護者の声も聞いた方が良くと思います。先輩から今の大谷こども園の保護者さんは話を聞く、少しでも子どもが就学に向かっていく時にこういう力が高まっていく方が良いんだよというようところで情報提供をしながら関わり合う機会を持つこともした方が良くと思います。ここは残念ながら山は無いわけですから、大谷が由良に来るぐらいでそんなに時間的なことは無いと思います。もしもそうならこども園バスじゃないけど、親の送迎は少し減らしますということだって考えられます。延長保育にしても来年は統一していく形になると思います。少しずつ教育委員会でも検討をしながら改善をして、親が心配されていることに少しでも寄り添えるような形で配慮していきたいということを話をしていく以外ないかなぁと思います。

吉田委員 存続在り気という話と、廃園在り気という話の根本のところでは不信感があります。そこをどう払拭するのかという話です。

別本教育長 これまで保護者や地域の方と2回ずつ、今回は合同でしたが意見交換会を行いました。そのスタンスとして廃園在り気での意見交換会に出ているつもりはございません。今吉田委員が言われたようなことの説明が中々出来づらいです。保護者の方や地域の方の意見を聞いて、一般的に差支えないところの答えしか言えません。廃園にするための説明会をしているわけではないので、今回の意見交換の3つのテーマぐらいしかないわけです。

吉田委員 そういう意味ではやはり保護者さんの方は色々な方が来られますので、これから先は保育園も選んで来てもらう時代にどんどんなっていくと思います。どこの町に聞いても公立園でもオープンデーをされています。保護者さんも意識のある方はある方ほど色々な園を覗かれて、自分達の子どもに合うものを選ばれて来る時に、北栄の中で預けたいのに預けたいところが限られてきてしまうというのが、町の為になるのかならないのかという意味では、保護者さんはこういう保育所があっても良いのではないのか、大谷は大谷で良いのではないのかという話をすぐくされるので、小規模だからではなくて、たまたま人数が少なくなってしまって今の規模だけど、昔は大谷といたら人数が多くてしょうからでした。これからは大谷の子といたらそうではなくて、「優しくて穏やかなそういう子だよ、大谷の子は」というような子ども達が出来上がっていくのではないかなぁと思いました。そういう規模の保育所だからこそ、そういう子どもが育っていくのではないのかなぁと思いました。何か意見として摺り合わせをするためのものを持って行かれると、保護者さんとも話し合いが出来ると思います。今度話し合いをする時には、教育委員会でこういうことを変えます、こういうことに取り組んで行きますというところを持って行かないと、話は進まないし納得されないと思うので、提案をここで考えていった方が良くのではないのかなぁと思います。

別本教育長 いつからということ抜きにして、今後の方向性として大谷を廃止にする方向で色々なことを検討していくということを決めていただければ、それはそれなりのやり方があると思います。そこが今言えない段階で、どう思っておられますかということ保護者から話を聞くだけです。これまで4,5歳児が、10名程度おられて、ここ

10年間の一番少ない時で5名でした。その下の4歳児も入れると10数名の集団になっていました。そういう中で不都合が起きているかと言ったら、起こるはずがありません。不都合が起きないように、保育をするわけですから。本当に少なくなつて、集団での関わり方などに問題が出て来た場合、今度は逆に保護者の方が怒られるわけです。

吉田委員

その時には変えたら良いと思います。

別本教育長

そうならないように手立てをしていきます。そういうことにはなりません。

吉田委員

そうであれば例えば栄みたい、未満児だけで保育所とかどうですかと提案なりを持っていかないと。

別本教育長

栄は5歳児がいましたが、ある程度の規模での保育が望ましいというようなことで、保護者の方からどんどん逃げていかれました。今は5人ほどしかいませんし、2歳児までしかいません。

光村委員

保護者の方は、年長さんで今年で終わりという保護者も出ておられましたよね。

吉田委員

もちろんおられました。

光村委員

何人ぐらいそういった方がいらっしゃいましたか。

事務局

それは、わかりません。

光村委員

今の5歳児の保護者さんは自分の同級生が9人もいるわけですから、子ども達の様子を観ても満足はします。でも次の5歳児の保護者は、自分の同級生が3人になって、大谷にいた時の姿を観ていないからわかりません。来年はこども園が残るのかもしれませんが、観た時に例えばドッジボールをしていた時がありましたがどの園もしていて、大谷はまだ9人の年長さんがいるので年中の3人も仲間に入って一緒に出来ます。楽しかったと思います。由良でもドッジボールをしていたし。今度3人になって何か別に変わるものが出来ると言えばそうなのかもしれませんが、切磋琢磨していくとかそういう経験が出来なくなってくるのを考えてね。

吉田委員

それがデメリットだと伝えられても実感としてわからないのでね。

光村委員

そこを由良に行ったり色々な経験をさせて、1年かけてやってみるということは大切なことだろうなあと思います。

吉田委員

経験もですし、大谷こども園ではなくて保育所にするとか、私が思うのは大谷こども園のままで、北条か大誠を民間委託するのはどうかなあとか、色々な考えとしてはあります。そういうことを検討されてから大谷を無くしようという話をされない、いけないと思います。

光村委員

そんな余裕があるのでしょうか。

吉田委員

色々皆さんが知っておられるので、何も知らずに小さいところが良いと言っておられるわけではなくて、保育士のことも考えておられるし、保育士さんがどんなに大変なのか、どういう環境でされているのかももちろんわかっておられます。ただ単に自分たちが良ければ良いということをおられるわけではありません。話を聞く中では、役場の方が自分の意見を聞いて下さるので、どんどん言われます。言う意見に対しての寄り添いや返答はあまりありません。皆さんはどうなるのかわからないというのはもちろんあります。そこで子どもや保護者さんの不安などを取り除く

ように、年数や手間などを少しずつかけていくようなことを言っていないとわかってもらえないと思います。色々な方法がある中で、無くなるということだけを提案されているので、何故無くならないといけないのかというところで不信感を持たれていると思います。

別本教育長 無くなるという提案はしていません。

光村委員 そうですね。

別本教育長 そういう方向で大谷の保護者の方や地域の方と話をしなさいということであればそうしますよ。

吉田委員 存続するための要因は人数だけでしょうか。

別本教育長 今の段階では人数でしょうね。

吉田委員 人数では結局不満は持っておられないというところで、人数が少ないという不安をわかってもらうためにはどうしたら良いのかというところを、これからどうやったらわかってもらえるのか進めていった方が良いと思います。

別本教育長 時間もありますので。冒頭に課長も言いましたが、12月2日には総合教育会議で町長とも議論をしますので、この続きは12月の定例会で議論をさせていただきたいと思います。その時には11月21日の意見交換会の議事録も出来ていると思います。

よろしいでしょうか。(はい)

この議題については、一先ずここまでにさせていただきます。準備した協議事項については以上でございます。

皆さんの方から何かございますか。(なし)

6 報告へ入ります。

新規ALTの就任について、説明をお願いします。

事務局 (資料により説明)

別本教育長 ようやく入国が出来るようになったということで、入国してから2週間東京で過ごされて、その後北栄町へ入って来られるようです。

ご質問等、ございますか。(なし)

町長と中学生との町行政に関する意見交換会について、説明をお願いします。

事務局 (資料により説明)

別本教育長 もしも興味がございましたら、見学は出来ると思いますのでよろしくお願い致します。それぞれの学校で14時から開催致します。

ご質問等、ございますか。(なし)

事務局の方で準備した報告事項については以上でございます。

皆さんの方から何かございますか。

竹信委員 今日学校訪問をしました。指導主事さんには話をしましたが、今回は学校評価がありませんでした。小学校のホームページを見ると、学校評価、関係者評価が載っていません。これは公開すべきだとなっているはずですが、チェックをしてきちんと指導をお願いしたいです。北条中学校も関係者評価が載っていません。この辺りはきちんと報告があつてから添付をするようになっているので、公開をしないといけないのではないのかなあとと思います。全国学力学習状況調査のことは大栄小学校には

載っていますが、他のところはどうかかなあというところでは。大栄小学校のホームページは、他の 3 つとはなんとなく違います。もう少し見やすくないかなあと思います。これは教育委員会に言ってもしょうがないことだと思いますが。ある程度統一したようなホームページの作りになる方が良いのではないのでしょうか。チェックしていただきたいです。私も色々を見つけようと思いましたが、見つけられませんでした。評価についてはきちんと掲載しないとけません。

別本教育長 確認をさせていただきたいと思います。ホームページについては、学校の特色というものもあります。一概に標準様式を示してお願いしても、その学校の魅力が無くなりますし、学校ごとで見えていただく人の数を増やす努力の方を望まないといけません。

竹信委員 記事などは良いと思います。最初のトップ画面のところが他の 3 つとは違うのでね。見ていただいて、それが教育委員会で変えられるのか、各学校の方で変えられるのかわかりませんが。

別本教育長 わかりました。
その他、ございますか。(なし)

7 その他(説明)

次回定例会の日程 12月24日(木)13時30分から

以上で、第11回教育委員会定例会を閉会いたします。

(閉会) 午後 4 時 40 分

令和 年 月 日

会議録署名委員

会議録署名委員